

5

東海ブロックのHIV医療体制整備

ー東海ブロック診療体制再構築にむけての取り組みに関する研究ー

分担研究者 今橋 真弓

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター感染・免疫研究部
感染症研究室長

研究要旨

HIV感染者およびエイズ患者の生命予後が改善された結果、患者の高齢化が進んでいる。一方、東海ブロックの診療責任医師の年齢中央値も58歳となり、早急な後継者育成が課題となっている。今後は、個人ではなく長期にわたって組織で診療体制を維持するために、医師のみならず各職種での定期的な連携会議を開催して、「顔の見える」関係性を構築する必要がある。

背景

平成5年に出された「エイズ治療の拠点病院の整備について（通知）」から早30年近くたとうとしている。HIV感染者およびエイズ患者（以下PLWH）の生命予後が大きく改善された結果、感染者等の増加および高齢化に対応する必要性が生じている。患者のみならず診療する医師の高齢化も問題になっている。令和3年に出された「HIV感染症・エイズに関する医療体制について（依頼）」では1.医療機関連携による長期的なエイズ治療提供体制の構築、2.合併症に対するための体制構築、3.地域のエイズ治療体制の維持及び向上について提起され、対応依頼がなされている。

A. 研究目的

本研究では、令和3年に出された「HIV感染症・エイズに関する医療体制について（依頼）」に対応するにあたり現状把握および連携構築のための活動計画を立案することを目的とした。

B. 研究方法

1) 東海ブロック内の拠点病院の現状把握

拠点病院調査をもとに、東海ブロック内のHIV診療拠点病院内の定期通院者数・薬害被害者人数・診療責任医師の年齢を調査した。診療責任医師の年齢は公表されている診療責任医師の卒業年度を厚生労働省の「医師等資格確認検索」ページより検索し、25を引き（卒業時年齢を25

歳と仮定）、算出した。

2) 薬害被害者に対する対応内容

2021年度に行った、薬害被害者に対する活動内容について調査した。

3) 連携会議の準備・開催

東海ブロック内のHIV診療拠点病院との連携を図るために会議を開催した。

C. 研究結果

1) 東海ブロック内の拠点病院の現状

現在東海ブロックには47施設の拠点病院（2クリニックは除く）、6施設の中核拠点病院がある。そのうち、薬害被害者が通院している病院は12施設である。沼津市立病院が中核拠点病院を返上し、静岡県の中核拠点病院は2施設となった。愛知県・岐阜県・三重県については比較的通院している薬害被害者は少数の施設に集中しているが、静岡県の場合は全県にわたって満遍なく分布していた。

東海ブロック圏内の中核拠点病院の診療責任医師の年齢中央値は58歳で範囲は41歳～73歳であった。

2) 薬害被害者に対する活動

i. 薬害被害者健診

2泊3日でPETを含む健診を行った。

2021年は3月1人、8月1人、9月1人の受診があった。

ii. リハビリ検診（測定）

今までは土曜日に集団で行っていたが、2020年度から個別に外来受診の形で行った。（カッコ

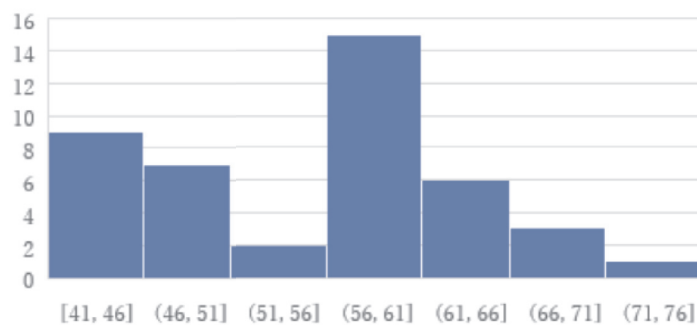
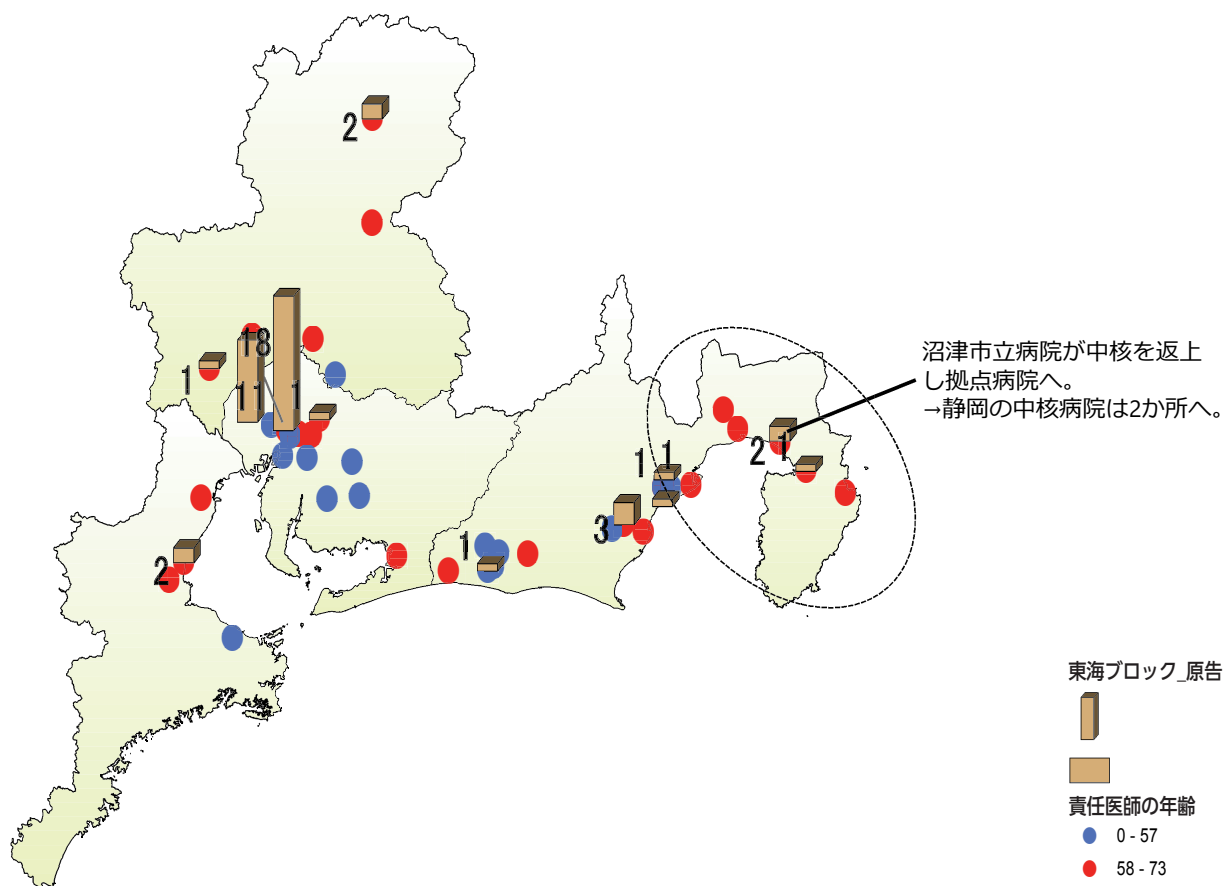


図2 東海ブロック責任医師年齢ヒストグラム (中央値 58歳 (範囲: 41~73歳))

内は受検人数)

2020年 5人 (当院通院中 (3)、新規 (岐阜大 (1)・名大 (1) 通院中))

2021年 3人予約 (当院通院中 (2)、浜松医療センター通院中 (1))

iii. 被害者往診/会議出席

往診者：医師・看護師

往診地域：静岡県磐田市・岐阜県高山市・名古屋市

頻度：訪問は年に1度、電話は毎月

3) 開催した会議

2021年度は以下の2つの会議を開催した。

● 静岡県エイズ治療拠点病院 医療連携会議

開催日：2021年11月10日 (水) 18:30~19:45

方 法：Web開催

参加者：

名古屋医療センター 横幕 能行、今橋 真弓、平野 淳
浜松医療センター 田島 靖久、山崎 郁真

聖隷三方原病院 志智 大介、渡嘉敷 俊介
 磐田市立総合病院 飛田 規、太田 敦代
 藤枝市立総合病院 池谷 健、松下 雅昭
 静岡市立静岡病院 前田 明則、岩井 一也、山崎 寛章、
 園田 幸弘
 静岡赤十字病院 村松 瑞穂
 沼津市立病院 飯岡 義教、森下 和美
 順天堂大学医学部附属静岡病院 小池 道明、岩神 真
 一郎、杉本 智恵子

内 容：講演 18:30～19:15

司 会：前田 明則（静岡市立静岡病院）

演 者：横幕 能行（名古屋医療センター）

演 題：「～Long Term Treatment Success～達成のため
 に我々はどうしていくか？」

意見交換会 19:15～19:45

● 愛知県エイズ治療拠点病院 医療連携会議

開催日：2021年12月8日(水)16:00～17:00

方 法：Web開催

参加者：

医師：名古屋医療センター 横幕 能行、名古屋医療
 センター 今橋 真弓、安城更生病院 鈴木 大介、い
 むれ内科クリニック 山本 景三、東名古屋病院 林 悠
 太、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院
 富田 ゆうか、日本赤十字社愛知医療センター名古
 屋第一病院 西田 徹也、豊田厚生病院 川端 厚

薬剤師：名古屋医療センター 平野 淳、名古屋医療セ
 ンター 松岡 梨恵、トヨタ記念病院 山室 栄一、日本
 赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 笠井 翼

看護師：名古屋医療センター 羽柴 知恵子、名古屋
 医療センター 三輪 紀子、名古屋医療センター 安江
 佐和子、トヨタ記念病院 日高 郁子、藤田医科大学
 病院 西田 梨恵、藤田医科大学病院 梶川 智弘、愛知
 医科大学病院 高橋 知子、日本赤十字社愛知医療セ
 ンター名古屋第二病院 大野 誉子

内 容：

- 医師分科会：司会 横幕能行
 各医師の自己紹介
 愛知県感染症対策課 平山氏・古橋氏参加
 施設状況の確認
- 薬剤師分科会：司会 平野淳
 各薬剤師の自己紹介
 施設状況の確認
 今後の各施設間での連絡方法の確認
- 看護師分科会：司会 羽柴知恵子
 各看護師の自己紹介

施設状況の確認

今後の各施設間での連絡方法の確認

また下記会議開催準備を行った。

● 愛知県エイズ治療拠点病院等診療連絡協議会（仮称）

参加予定者：愛知県内のエイズ治療拠点病院の病院長、看護部長、事務長

D. 考察

診療責任医師といえ実際に最前線で診療にあたっている医師であり、HIV診療医師の高齢化が問題となっている。早急な後継者対策が必要とされることが示唆された。一人の医師の熱意に支えられた診療体制ではなく、組織で支える診療体制の構築が必要である。特に、静岡県東部は中核返上を行った病院もあり、拠点病院の再編成を考慮する時期に来ている。

被害者に対する健診の機会は設けられてはいるものの、利用者が少ない。今後は薬害被害者からアンケート調査を行うなどして、健診利用阻害因子を明らかにする必要があると示唆された。

連携会議はWEB上ではあるものの、開催することで、顔の見える診療体制につながることを期待された。今後は定期的な連携会議を各職種で開催することによって、治療困難症例や定期通院者の転院時等、気軽に相談できる関係性が構築されるだろう。

E. 結論

東海ブロックの診療体制について報告した。診療責任医師の中央値が60歳に近づいているため、組織でHIVを診療する体制の構築が望まれる。今後は連携会議を通じて、組織+地域で診療する体制も並行して構築していく必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Kawatsu L, Uchimura K, Kaneko N, Imahashi M. Epidemiology of coinfection with tuberculosis and HIV in Japan, 2012-2020. Western Pac Surveill Response J. 2022 Mar 28;13(1):1-8. doi: 10.5365/wpsar.2022.13.1.896. eCollection 2022 Jan-Mar.
- 2) Matsuoka K, Imahashi N, Ohno M, Ode H, Nakata Y, Kubota M, Sugimoto A, Imahashi M, Yokomaku Y, Iwatani Y. SARS-CoV-2 accessory protein

ORF8 is secreted extracellularly as a glycoprotein homodimer. *J Biol Chem.* 2022 Mar;298(3):101724. doi: 10.1016/j.jbc.2022.101724. Epub 2022 Feb 11.

- 3) Kasahara T, Imahashi M, Hashiba C, Mori M, Kogure A, Yokomaku Y, Hashimoto N, Iwatani Y, Hasegawa Y. Retrospective Analysis of the Efficacy of Early Antiretroviral Therapy in HIV-1-Infected Patients Coinfected with *Pneumocystis jirovecii*. *AIDS Res Hum Retroviruses.* 2021 Oct;37(10):754-760. doi: 10.1089/AID.2021.0025. Epub 2021 Aug 3.
- 4) Hashiba C, Imahashi M, Imamura J, Nakahata M, Kogure A, Takahashi H, Yokomaku Y. Factors Associated with Attrition: Analysis of an HIV Clinic in Japan. *J Immigr Minor Health.* 2021 Apr;23(2):250-256. doi: 10.1007/s10903-020-00982-y.

2. 学会発表

- 1) Imahashi, M., Ishimaru, T., Ikushima Y., Takahashi, H., Iwatani, Y., Yokomaku, Y. The road to change in HIV testing policy in Japan based on anonymous free-of-charge HIV testing preventing SARS-CoV-2 infection. APHA 2021 Annual Meeting & Expo, Oct 24-27, 2021, Denver, U.S.A
- 2) 今橋真弓. 「iTesting：新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究」第1回First-Track Cities Workshop Japan. 2021年7月10日（東京）
- 3) 今橋真弓、石丸知宏、生島 嗣、高橋秀人、岩谷靖雅、横幕能行. 「iTesting：新型コロナウイルス感染拡大期における保健所HIV等検査の実施体制の確立に向けた研究」第35回日本エイズ学会学術集会・総会. 2021年11月21日～23日（東京）
- 4) 今橋真弓、石丸知宏、生島 嗣、高橋秀人、岩谷靖雅、横幕能行. 「iTesting: The anonymous free-of-charge HIV/STI testing preventing COVID-19」第80回日本公衆衛生学会総会. 2021年12月21日～23日（東京）

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし